

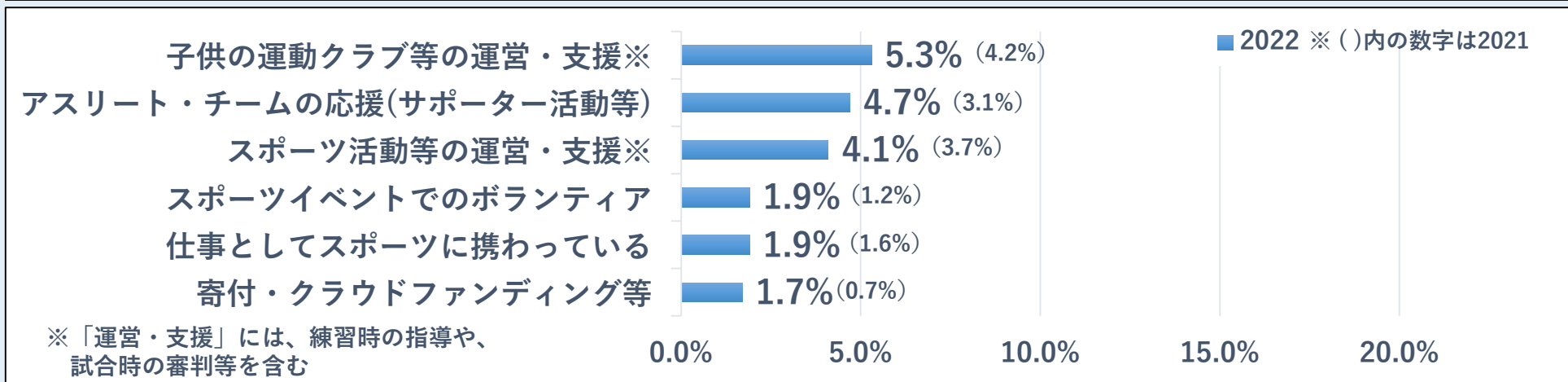
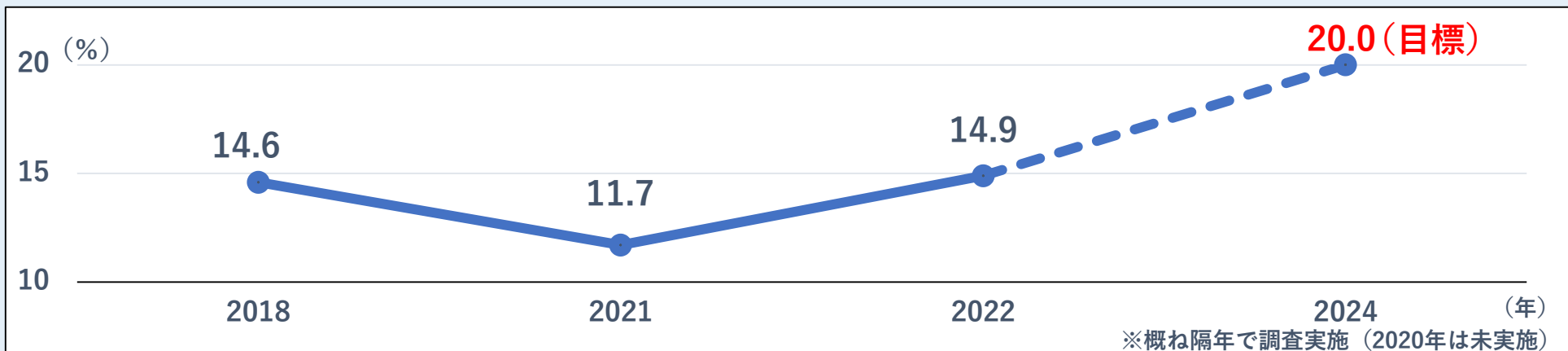
- 1 スポーツを「支える」活動
- 2 第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査

—スポーツを「支える」活動の実施率—

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－支えるスポーツ－

○ 都民のスポーツを支える活動の実施率（1年間にスポーツを支える活動を行った都民(18歳以上)の割合）

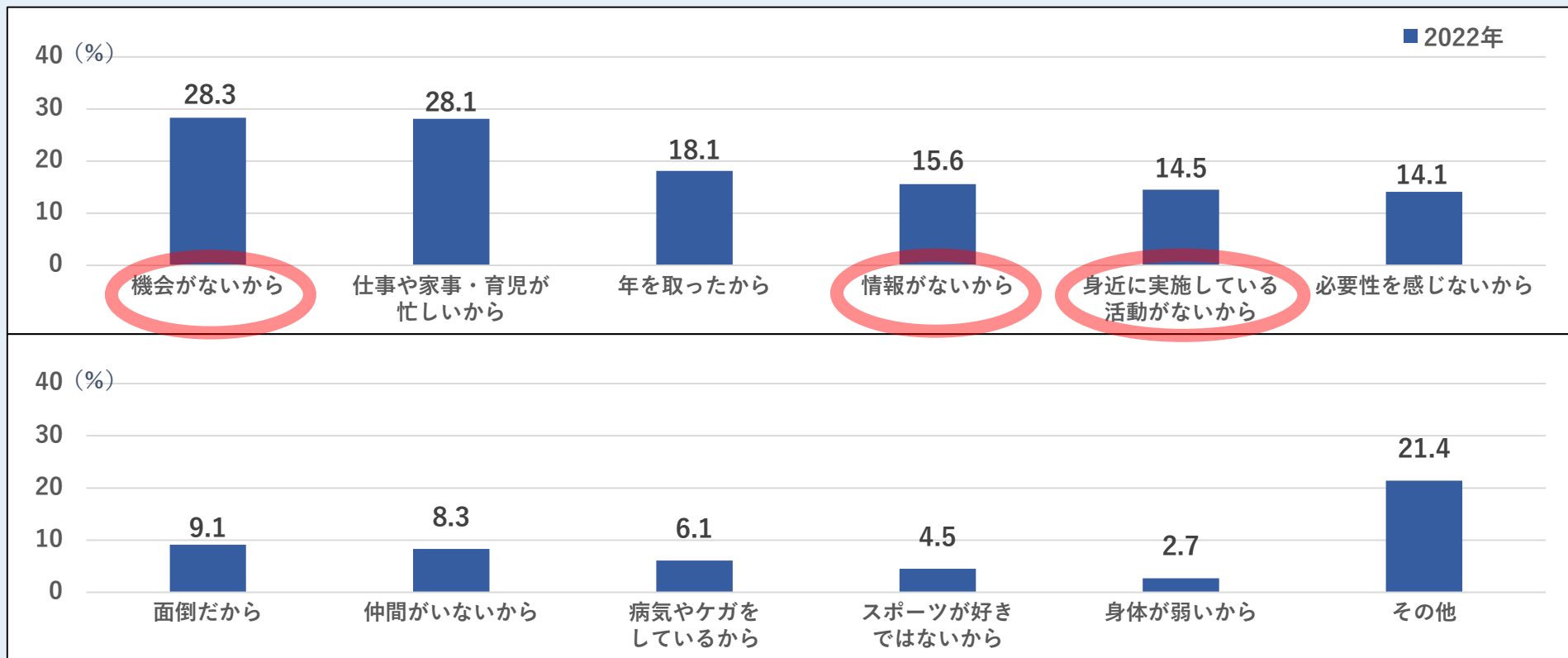


○ 2022年度のスポーツを支える活動の実施率は、コロナ禍での落ち込みから復調傾向にあるものの、目標値20%に対して14.9%にとどまる。

○ 特に、東京2020大会のレガシーである「**ボランティア**」や「**アスリート支援**」については、2025年に開催予定の世界陸上やデフリンピック等、今後の大規模スポーツイベントの開催も見据え、未来に受け継いでいくことが重要

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－支えるスポーツ－

○スポーツを支える活動をしなかった理由



○ 「機会がないから」、「情報がないから」、「身近に実施している活動がないから」等の場・情報不足を理由とするものが上位5つに含まれている。

○ スポーツを支える身近な機会や情報を提供していくことが重要と推察される。

1. 都民のスポーツ活動に関する実態調査－支えるスポーツ－

○ 既存の取組（一部抜粋）

ボランティアへの活動機会の提供・情報発信

- ▶ ボランティアへ各種イベント等における活動機会の提供・情報発信を行うとともに、ボランティア活動の魅力発信、体験の共有、交流の場の提供等により、ボランティア文化の定着を図る。

【情報発信ツール】

東京ボランティアレガシーネットワーク
TOKYO障スポ&サポートなど

【令和4年度実績例】

- ・東京2020大会1周年記念イベント
- ・有明アーバンスポーツパーク都民体験会
- ・BEYOND STADIUM
- ・都立特別支援学校活用促進事業における体験教室



※関連施策については、「ボランティア文化の定着（資料P15）」参照

スポーツ指導者等の人材育成や、アスリートの地域での活動支援

- ▶ 指導者等の人材確保や資質向上を通じて、スポーツの裾野拡大につなげていくため、スポーツ推進委員研修会やパラスポーツ指導員養成講習会、パラスポーツボランティア講習会等を実施
- ▶ 国際大会に出場し活躍したアスリートや、今後活躍が期待されるアスリートなどを、東京都が広報・応援し、地域での応援気運を醸成するとともに、アスリートが地域でのイベント等を通じて、スポーツの普及や競技力の向上に貢献することを後押しする。

支える

現状・課題

- ・ スポーツを支える活動には**様々な形**があり、スポーツ活動（する・みる）の裾野拡大と実施率向上のためには、幅広くスポーツを支える活動が不可欠
- ・ 直近のスポーツを支える活動の実施率は、目標値20%に対して**14.9%**にとどまる。

論点

- ・ より多くの都民に、スポーツを支える様々な活動に取り組んでもらうためには、どのようなアプローチが効果的か。
（支える活動の例）
ボランティア、アスリート・チームの応援、スポーツ指導者、寄付等

2. 第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

—東京2020大会後のスポーツ振興について—

第28期における議論

東京2020大会後のスポーツ振興について、施設の戦略的活用やパラスポーツの振興等の視点から、幅広くご議論いただいた。

第28期 主な審議事項

第1回（令和3年11月22日）	東京2020大会の総括とスポーツのレガシー
第2回（令和4年3月25日）	都立スポーツ施設の戦略的活用
第3回（令和5年3月29日）	スポーツ活動に関する調査結果を踏まえた今後のスポーツ振興（する・みる）
第4回（令和5年8月24日）	スポーツ活動に関する調査結果を踏まえた今後のスポーツ振興（支える）

論点

第28期における審議会での議論や事業の進捗・方向性を踏まえながら、今後の都のスポーツ振興をどう進めていくべきか、次期計画策定も見据え、改めてご意見を伺いたい。

TOKYO スポーツレガシービジョンと東京都スポーツ推進総合計画について

TOKYOスポーツレガシービジョン

東京都スポーツ推進総合計画（主な政策指針）

1. 都立スポーツ施設の戦略的活用

- する スポーツを身近でできる場の確保
- みる 誰もが気軽に観戦できるスポーツ環境の整備
- する スポーツクラスターを核とした地域の活性化
- みる スポーツ施設における観客の満足度向上

2. 国際スポーツ大会の誘致・開催

- みる スポーツ観戦の魅力発信
- 支える スポーツを通じた国際交流

3. スポーツの場を東京の至る所に拡大

- する スポーツを始める機会の創出
- する 東京を活性化させるスポーツイベント等の展開

4. パラスポーツの振興

- する 誰もが楽しめるスポーツへの理解促進
- する 障害の有無に関わらないスポーツ振興
- みる 障害者スポーツの更なる魅力発信
- 支える 多様なスポーツの振興に向けた人材の育成
- 支える 多様なスポーツを支える基盤づくり

5. 東京のアスリートの活躍

- する 競技力向上の取組を通じたスポーツ実施の推進
- みる アスリートの活躍を通じたスポーツ気運の醸成

6. ボランティア文化の定着

- 支える スポーツを支える人材の育成

7. 未来へのメッセージ

- 支える スポーツを通じた被災地支援

第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

1 都立スポーツ施設の戦略的活用（第28期の進捗と今後の方向性）

18施設のネットワークでポテンシャルを最大限発揮

- 「発信力の強化」として、LINE等のSNSを活用した効果的・戦略的な18施設情報の発信（新規）
- 「ニーズ対応力の強化」として、施設利用に関する総合的窓口「TOKYOスポーツ施設コンシェルジュ」を開設（新規）
- 「一体的取組によるスポーツ振興」として、施設周遊バスツアー（年7回予定）等を開催（新規）

各施設を最大限活用するための3つの取組による多様な活用を推進

- 「スポーツでの更なる活用」として競技大会やスポーツイベントを開催
 - ・ 世界バドミントン選手権大会2022（東京体育館）
 - ・ SOMPO JAPAN CUP2022（大井ふ頭中央海浜公園）
 - ・ アーバンスポーツTOKYO2022（有明アーバンスポーツ）など多数
- 「多様な活用による新たな体験の提供」として、エンターテインメントやユニークベニュー等の幅広い活用
 - ・ 音楽ライブ：東京体育館、武蔵野の森総合スポーツプラザ、海の森水上競技場など
 - ・ ロケ地利用：海の森水上競技場など
- 周辺の「施設・地域との連携」により、地域の魅力向上に寄与（近隣公園と連携した音楽イベントやキャンプ等の開催：TOKYO ISLANDとの連携など）

【今後の方向性】

施設間の連携を通じて一層のシナジー効果を生み出すとともに、各施設の特性を生かした多様な活用を推進することで、都民に届ける価値を最大化していく。

第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

2 国際スポーツ大会の誘致・開催（第28期の進捗と今後の方向性）

都立スポーツ施設を戦略的に活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 18施設のネットワークで規模の大小・多様な種目に対応し、国際大会を誘致・開催
国際スポーツ大会の誘致・開催を促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都内で国際スポーツ大会の開催を目指す団体に対し、誘致活動や開催の支援を実施 <実施状況> <ul style="list-style-type: none"> ・セイコーゴールドングランプリ陸上2022東京（令和4年5月8日） ・三井不動産2023ワールド車いすラグビーアジア・オセアニアチャンピオンシップ（令和5年6月29日～7月2日） ・東京2023パラダンススポーツ国際大会（令和5年8月5日～6日）ほか ○ 国際スポーツ大会の誘致に向け、東京のスポーツ資源と都市の魅力をホームページや国際会議等で発信予定(新規) ○ 国際スポーツ大会の大会運営組織に対する都のあり方について、基本的な事項を定めた「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を策定(新規)
スポーツの力に触れる場を広げる	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模スポーツ大会やプロスポーツチーム等が主催する試合に都民を招待し、都民が多くのスポーツに触れ、感動を体験できる機会を創出 ○ 第1回WBSC女子U15ソフトボールワールドカップ2023において、親善試合や観戦等、様々な機会を通じて、子供たちの国際交流を促進(新規)
国際スポーツ都市・東京の魅力をPR	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界陸上・デフリンピックを通じ、東京の文化や食、観光など多様な魅力を世界へ発信するため、様々な取組を今後検討

【今後の方向性】

国際スポーツ大会を開催することで東京の活性化や都市としてのプレゼンス向上のほか、ユニバーサルコミュニケーションの促進など、インクルーシブな街・東京の実現につなげていくとともに、ガイドラインを踏まえ、大会が公正で信頼されたものとなるよう都としてサポートしていく。

第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

3 スポーツの場を東京の至る所に拡大（第28期の進捗と今後の方向性）

<p>これまでの取組を発展させ、スポーツの魅力を増大</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウォーキングイベント（TOKYOウォーク）やラグビーイベント「TOKYO RUGBY MONTH」、スポーツフェスタ、都民スポレクふれあい大会など、レクリエーションスポーツを含めた様々な体験機会を提供 ○ 都民からの多様な問合せに応えるよう、民間を含めたスポーツ施設の紹介やイベント・教室の情報などを発信する案内サイト「SPOPITA」による情報発信等を実施（令和4年度閲覧数：560,764回）
<p>パートナーと協力し、オール東京でスポーツを推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツ実施率やパラスポーツの関心度向上に資する区市町村の事業に対して補助 令和4年度：地域スポーツ推進(44地区132事業)、パラスポーツ推進(42地区114事業) ○ スポーツ推進企業による社員のスポーツ活動を推進する取組や、スポーツ分野における社会貢献活動に関し、ホームページ等で情報発信 令和3年度からスポーツインストラクター等の派遣を開始するなど、企業を支援 ※認定企業：333社（令和3年度）⇒ 366社（令和4年度）
<p>様々なニーズに応じてスポーツとの新たな接点を創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ オフィス街等でのプロモーションにより、働き盛り世代のビジネスパーソンに、運動機会のきっかけを提供（令和4年度：立川と東京駅の2か所で開催）（新規） ○ 「GRAND CYCLE TOKYOの推進」として、臨海部で自転車ライドイベント（レインボーライド）とスポーツ体験イベント（マルチスポーツ）を開催（新規） また、多摩地域で自転車ロードレースや都民参加イベント等を開催予定（新規）

【今後の方向性】

区市町村や民間企業など、あらゆる関係者と協力し、多様なニーズに応じた、「する・みる・支える」についての取組を充実させることで、日常にスポーツが溶け込んだまちを実現していく。

第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

4 パラスポーツの振興（第28期の進捗と今後の方向性）

<p>ファンの拡大と交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピックを開催した8～9月を「TOKYOパラスポーツ月間」と位置づけ、身近な場所での体験会の実施等、集中的にパラスポーツに触れる機会を創出 (新規) ○ 「TEAM BEYOND」として、誰もが参加できるボッチャ大会を中心としたイベントを開催し、障害のある人とない人が交流する機会を提供
<p>パラスポーツに取り組む障害のある人を応援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツや運動に関心のない障害のある人に向けて、身体面での健康効果や仲間づくりなど社会面の効用を伝える動画等を作成し、普及啓発を実施 (新規) ○ 都立特別支援学校の体育施設を障害者団体等に貸し出すとともに、障害の有無に関わらず参加できるスポーツやスポーツ・レクリエーションの体験教室を開催（令和5年度実施対象校：31校）
<p>「だれでも、どこでも、いつまでも」を実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「パラスポーツリモート参加事業」として、遠隔操作によりコミュニケーションが可能な分身ロボットを活用し、外出困難な重度障害者等にパラスポーツの体験教室やボランティアなどに参加する機会を提供 (新規) ○ 令和4年度に「障害者のスポーツ施設利用促進マニュアル」を改訂 ⇒区市町村スポーツ施設に対して、パラスポーツの専門知識を有する「施設利用促進アドバイザー」を派遣し、施設のニーズや状況に合わせて支援 (新規) ○ 地域でのスポーツ・福祉・医療・教育分野の協働を後押しするため、区市町村向けの補助の中に新たな支援メニューを創設するとともに、アドバイザーを派遣 (新規) ○ 東京都パラスポーツトレーニングセンターを開設（令和5年3月21日） (新規)

【今後の方向性】

障害者が自らの状況に応じてスポーツを楽しめるよう、活動を支える人材の育成や場の確保、地域における環境整備に取り組むとともに、幅広く都民が身近な場所でパラスポーツに親しめるきっかけを提供し、障害の有無を問わず、誰もがスポーツを楽しめる共生社会の実現につなげていく。

第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

5 東京のアスリートの活躍（第28期の進捗と今後の方向性）

<p>競技人口の拡大、アスリートの発掘・育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジュニアスポーツの裾野拡大と競技力向上を目的とし、地域のジュニア層を対象としたスポーツ教室等に対して助成（令和4年度実績：58地区体協） ○ 優れた運動能力を有する中学生から、活躍が見込まれるアスリートを選考・育成（令和5年度からコンディション管理アプリを導入） ○ 「パラスポーツ次世代ホープ発掘事業」として、競技体験会や競技適性の相談会等を実施。デフリンピックを見据え、デフスポーツを対象に追加 (新規)
<p>東京のアスリートの強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際大会や世界選手権への出場が見込まれる東京都選手及びその指導者の競技活動費を助成（令和4年度実績：29競技・種目団体） ○ 東京都の認定選手「東京ゆかりパラアスリート」に対し、競技活動費を助成（令和4年度認定者数：96名） ⇒ジュニアアスリートやデフアスリート等を助成対象に追加(新規)
<p>アスリートがその経験をもとに地域で活躍</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際大会で活躍又は今後活躍が期待されるアスリートについて、特設HPを作成する等、東京都が広報・応援（令和4年度登録者数:109名） (新規) ○ 学校や区市町村等からの依頼を受け、パラスポーツに関する講演会等の講師として、東京ゆかりのパラアスリートやスタッフ、競技団体等とのマッチングを実施 (新規)

【今後の方向性】

アスリートの発掘・育成・強化を一層後押しするとともに、アスリートが競技力向上などの成果を地域に還元する取組を促していくことで、更なるスポーツの裾野拡大やスポーツ実施率、競技力の向上につなげるなど、好循環を生み出していく。

第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

6 ボランティア文化の定着（第28期の進捗と今後の方向性）

多彩な情報・活動
フィールドの提供/ス
ポーツ分野の活動機会
の確保

- 「東京ボランティアレガシーネットワーク」において、様々なボランティア活動の魅力発信、体験の共有、交流の場を提供 **（新規）**
- 「TOKYO障スポ&サポート」において、ボランティア人材にイベント等の情報を提供し、活動機会の拡充を図るとともに、ボランティアコーディネーターを通じ、ボランティア人材と活動場所とをマッチング
- 東京2020大会のシティキャスト・フィールドキャストに上記「東京ボランティアレガシーネットワーク」や「TOKYO障スポ&サポート」への登録を案内
令和4年度は、「東京2020大会1周年記念イベント」等の局内スポーツイベントを中心に活動機会を提供 **（新規）**

大会で得られた経験・
ノウハウの発信

- シティキャストの募集・運営システム構築を通じて得たノウハウを、様々なボランティア事業において活用できるようにまとめた手引きを作成し、公表
- シンポジウム等でボランティアレガシーについて講演
 - ・ TOKYO2020レガシーワークショップにおける講演（令和4年10月16日）
 - ・ TOKYOスポーツレガシーシンポジウムにおける講演（令和5年7月23日）等

【今後の方向性】

大会を契機に高まったボランティア活動への気運を更に高めるべく、スポーツ分野での活動機会を拡大し、経験の蓄積を将来に受け継ぐことで、ボランティア文化の定着を図っていく。

第28期東京都スポーツ振興審議会の総括

7 未来へのメッセージ (第28期の進捗と今後の方向性)

<p>大会の記憶に触れる場や機会を創出し、大会の感動と意義を後世に継承</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京2020大会で使用した都立の競技会場、その他都有施設等にレガシー設置物（シンボル、マスコット、銘板、有明聖火台、名称の付与等）を設置 ○ 都庁や都有スポーツ施設、都内外の各種イベント、デジタルアーカイブ等でアーカイブ資産（メダル、聖火リレーのトーチ等の記念品や記録等）を展示 SusHi Tech Square（旧東京スポーツスクエア）内に、デジタル技術を用いた資産展示や競技体験ができる場を開設予定（新規） ○ 広く国内で活用することが可能な大会の歴史的・社会的意義を伝える文書について、都立中央図書館及びデジタルアーカイブにて一般公開を開始（新規） ○ 大会1周年記念イベント（令和4年度）やメモリアルデーイベントを開催し、多様な主体との連携を深め、大会レガシーを着実に継承
<p>「東京レガシーハーフマラソン」の創設</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラリンピックのマラソンコースを活用した国際的なハーフマラソン大会として、令和4年度に東京レガシーハーフマラソンを創設（新規）
<p>大会で得た知識や知見を他都市と分かち合う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ パリ2024大会の開催都市であるパリ市に、輸送、都市オペレーションセンター、ボランティア等の知見を共有。加えて、大会後に作成した「TOKYOスポーツレガシービジョン」等も共有 ○ ロサンゼルス2028大会の開催都市であるロサンゼルス市に、「TOKYOスポーツレガシービジョン」等を共有。ボランティア運営、関係自治体との連携等について情報を提供

【今後の方向性】

東京2020大会が残した様々な資産に触れることのできる場を身近な場所に創出することで、そこに込められた大会開催の意義や、「スポーツの素晴らしさ」など重要なメッセージを未来に受け継いでいく。